

(2) 上三宮小学校に関する対応経過及び今後の進め方について（報告）

ア 上三宮小学校に関する対応経過

●学校における保護者からの意見の聴き取り（個別懇談時）

日時 令和2年11月下旬

対象 2年生～5年生の保護者 11名

【出された意見について】

基本的に保護者は、統合に賛成、または、条件によっては賛成であるという意見がほとんどである。未就学児に兄弟がいる保護者は、今すぐにでも統合という考えもあれば、卒業した兄弟がいる保護者は、このまま卒業させたいと考えている保護者もいる。条件としては、スクールバス等の通学手段の整備の要望がある。

●上三宮小学校保護者との意見交換会

日時 令和3年2月5日（金）18：00～19：30

会場 上三宮小学校食堂

参加者 保護者 16名

【出された意見について】

今回の意見交換の中で、保護者から統合に対して賛成か反対の明確な意思表示はなかったが、主な意見をまとめると次のとおりであった。

- ・市の方針が決定し、説明を受けなければ意見を言うことはできない。
- ・早く市の方針を決定して欲しい。
- ・実施時期についても早く決定して欲しい。
- ・来年度以降の学校の体制が心配である。

以上、市の対応に対する不満に近い意見や方向性が見えないことへの不安の声が多数を占めていた。

●上三宮小学校保護者（PTA役員）との意見交換会

日時 令和3年3月8日（月）18：30～19：40

会場 上三宮小学校校長室

参加者 保護者（PTA役員）3名

【出された意見について】

教育委員会として、今後の方向性（案）について、小規模特認校の導入についても検討していることを説明。

3名の方とも、これまで統合するのであると思っていたことから、小規模特認校制度という新たな提案は、学校が存続することであり良い印象、良い受け止めをしていただいた。出された意見としては以下のとおりである。

- ・特色ある教育活動を行うことは、子どもに良い経験、自信につながると思う。
- ・小規模特認校制度を導入し、他の地区から来てもらうためには、まず、地区内の子どもが学区外ではなく、上三宮小に入学することが重要ではないか。
- ・地元の学校に通学できるのが一番である。小規模特認校制度の導入にあたって、希望する方のため通学手段について検討して欲しい。
- ・今後、説明会を開催する場合、意見を言いやすくするためグループに分けて行うことも検討して欲しい。
- ・保護者の中にも意見は様々である。統合を望んでいる保護者もいる。
- ・小規模特認校制度について、他市町村の成功事例等を説明してもらいたい。
- ・入学者が0人であることが、保護者としても問題と考えている。小規模特認校制度を導入し、市が全力で取り組んでいく考えを示せば、地域は協力をしていくと思う。

イ 今後の進め方について

以下の選択肢について、保護者、未就学児の保護者、地域住民の方々と意見交換会を実施し、意向の把握に努める。

なお、それぞれの選択肢について、具体的に内容を検討し、結論を出すこととする。

- ・実施計画で検討していく。
- ・学校を存続させ、小規模特認校制度の導入を検討していく。
- ・実施計画の決定を待たずに、統合を検討していく。

【検討手順（案）】

（手順1）具体的内容の検討と方針の決定

- ① 保護者、地区住民、地区の未就学児の保護者との意見交換会
- ② 保護者、住民等から出された意見等の整理
- ③ 小中学校適正配置等庁内検討委員会（幹事会）
- ④ 総合教育会議
- ⑤ 適正規模適正配置審議会
- ⑥ 議会への協議（全員協議会）
- ⑦ 定例教育委員会での決定

（手順2）今後の方針について、保護者、地区住民説明会の実施。

（手順3）今後の方針の実施に向け準備作業

（手順4）実施